

ロボットすいすい

花北青雲高で 県立大1T教室 プログラミング制御体験

県立大ソフトウェア情報学部による「1T体験教室」は21日、花巻市石鳥谷町北寺林の花北青雲高校（小原和雄校長、生徒491人）で開かれた。生徒がパソコンによるプログラミング制御でロボットの操作を体験し、情

報技術の魅力に触れた。

子供たちの「理科離れ」を防ごうと同学部が主催しており、今回は「ロボットはピアノ・セキパンで滑らかに走れる」をテーマに実施。13年生15人が参加した。

同学部の今井信太郎講師は、高校の数学で学習する微分と積分がモーターの挙動制御に使われることを紹介。生徒は制御のプログラムを組み、車輪が付いたロボットの直進や右折、蛇行に挑戦した。

初めのうちは、スイッチを入れた途端にぐるぐる回ったりコースをそれたりするロボットもあったが、生徒は友人らと相談しながら試行錯誤を重ねた。緩急あるカーブなどに四苦八苦しながら

も、最後はほぼ全員が、模造紙に書かれた全長24センチほどの線上をロボットが滑らかに進めるまで上達。プログラミングの奥深さを体感した。

ビジネス情報科2年の佐々木未来さん（17）は「ロボットの動きの細かい調整が大変だったけれど、思い通りに動いてくれると達成感を味わえる。とても楽しい」と笑みを浮かべた。

今井講師は「数学が身近なものに使われていることを知ってほしい」と期待を込めた。

も、最後はほぼ全員が、模造紙に書かれた全長24センチほどの線上をロボットが滑らかに進めるまで上達。プログラミングの奥深さを体感した。

ビジネス情報科2年の

佐々木未来さん（17）は「ロボットの動きの細かい調整が大変だったけれど、思い通りに動いてくれると達成感を味わえる。とても楽しい」と笑みを浮かべた。

今井講師は「数学が身近なものに使われていることを知ってほしい」と期待を込めた。



制御のプログラムを組み、コース上でロボットを走らせる生徒